

中学校国語科における書いて伝え合う指導の工夫

～自他協働の作品作りのための付箋紙を用いた交流を通して～

特別研修員 国語 大河原幹夫（中学校教諭）

研究の構想

生徒の実態

- 書くことに対する苦手意識
- 目的や相手に応じた表現が苦手
- 校正・推敲のスキルが未熟

目指す生徒

○分かりやすく書いて伝え合うことのできる生徒

具体的な姿

- ・書く楽しさを実感できるようになる
- ・目的に応じて構成・表現する力が向上するようになる
- ・校正・推敲し、より良い文章を追求するようになる

手立て

- ①自他協働の課題設定【共通テーマに沿った作品作り】
- ②グループ交流での推敲【付箋紙を活用した交流】



実践例：「学校案内リーフレットを作ろう」

【単元の流れ】

○課題把握

自他協働の課題

：学校のよさをどう捉え、どう伝えるか、テーマに沿ってグループで1枚のリーフレットに仕上げよう

手立て①

グループでの編集会議

○作品づくり

書く材料の確認

グループの
キャッチコピー作り

レイアウト等の確認



既習事項を活用して下書きを書く

読み手を意識

読みやすい構成

図表の活用

自分の意見を書く

○交流による推敲

手立て②

青付箋：参考にした点

赤付箋：課題点

語りかけるような出しにすると良いと思う

がことはたくさんあると思います。部活に熱心に取り組んでいると思います。でも○中は部活だけでなく大きな行事があります。文化発表会です。この3つは「○中三大大行事」とよばれ、とても

まとめるのに苦労したことを書くの良い

ます。この3つの中で一番気合を入れるのは何ですか。一番は文化発表会です。合唱コンクールがあります。三つは運動会と違って、体力勝負ではないので、どのクラスにも勝ち目があります。朝練や昼練をして、クラス優勝目指して力が入ります。まず1つ目は3つともクラス対抗であることです。2つ目はクラスみんなで団結できることです。団結するのは時間がかかります。みんなと意見がぶつかり合ったり、思い通りにいかなくてぎくしゃくした関係になったりで大変な面が多いです。それでもそれを乗り越えたところに団結があり、そして優勝があります。また、終わってみてからふり返ると、大変な面があっても、それがとても楽しかった時間と思えます。そんな気分を味わうために本気で全力でやってみてください。必ず達成感や楽しさを感じます。私もこのようなことを体験して、成長したなと思えるようなことがありました。何事も広い心で受け入れられるようになりました。伝えるためには今までのような言葉だけではなく、自分から進んで行動して伝えなければいけないことを学びました。どうでしたか。○中の行事に興味をもてたでしょうか。実際に生活してみると○中の不安はなくなり、想像以上に楽しいところがあります。楽しみにしてください。

生徒の下書き

この書き方は、行事のよさが分かるね

行事で、自分にプラスになったことを書くが良い

合唱コンクールに気合いが入る理由を書こう

付箋で指摘し合ったことを、グループで話し合い、吟味します。

○清書



直していただきます。

こんにちは みなさん、○中と聞いて思い浮かぶことは何ですか。お祭りの部活動のことが一番だと思います。確かに部活は盛んです。ですが、○中には部活だけでなく、知ってほしい大きな行事があります。それは「マラソン大会」「運動会」「文化発表会」です。この3つは○中三大大行事と呼ばれ、とても気合が入ります。この3つの中で一番気合が入るのは何ですか。アンケートをしました。皆さんの予想は何ですか。一番は文化発表会です。文化発表会は合唱コンクールがあります。運動会と違って、体力勝負ではないので、どのクラスにも勝ち目があります。朝練や昼練をして、クラス優勝目指して力が入ります。まず1つ目は3つともクラス対抗であることです。2つ目はクラスみんなで団結できることです。団結するのは時間がかかります。みんなと意見がぶつかり合ったり、思い通りにいかなくてぎくしゃくした関係になったりで大変な面が多いです。それでもそれを乗り越えたところに団結があり、そして優勝があります。また、終わってみてからふり返ると、大変な面があっても、それがとても楽しかった時間と思えます。そんな気分を味わうために本気で全力でやってみてください。必ず達成感や楽しさを感じます。私もこのようなことを体験して、成長したなと思えるようなことがありました。何事も広い心で受け入れられるようになりました。伝えるためには今までのような言葉だけではなく、自分から進んで行動して伝えなければいけないことを学びました。どうでしたか。○中の行事に興味をもてたでしょうか。実際に生活してみると○中の不安はなくなり、想像以上に楽しいところがあります。楽しみにしてください。

※（緑色の部分は、付箋紙の指摘により生徒が加筆した部分）

成果

- グループで一つの作品を作っていくという自他協働の課題設定を取り入れたことで、自他の文章をより良くしようと、主体的に校正・推敲することができた。
- 付箋紙を用いて文章の推敲をしたことにより、下位層の生徒も、他者の文章に対して課題や感想を述べられた。また、多くの生徒が付箋紙を推敲に役立てていた。

課題

- 多様な文章のモデルや交流を通して「魅力ある文章」の定義を、生徒自身が考える必要がある。
- 付箋紙を用いて推敲し合ったことで、良い意見や考えが出されていたが、それらを基に話し合う交流の時間を十分に確保し、一層の推敲を重ねた上で清書させたい。